

eバイクでGo!

衰えを知らない自転車人気。いま、注目を集めるのがスポーツバイクに電動アシスト機能がついた「eバイク」だ。山道をパワフルに、長い道のりも快適に走ることができ、海外で先行するサイクルツーリズムで地域活性化を進める動きも出てきた。eバイクは自転車ブームの新たな起爆剤となるか。その魅力に迫った。

爽やかな風が吹いた5月のある平日。マウンテンバイク専用施設「Smile Bike Park」(東京都稲城市)には、大木の根が張った山道を切りながら疾走する利用者の姿があった。急な坂道を軽快に登り、急なカーブを猛スピードで下った後は小山の上を勢いよくジャンプする。スリリングなテクニ

ックの数々は見ていてヒヤッとするほどだ。けれど、彼らに乗るのはアシスト機能がついたマウンテンバイク(eマウンテンバイク)。バッテリーはフレームに内蔵されており、見た目はマウンテンバイクと変わらない。インストラクターの内藤仁雄さんは「一般のマウンテンバイクだと初心者は上り坂で挫折する人が多い。アシスト機能があることで登る面白さを体感しやすい」と魅力を語る。同施設では2020年以降、eバイク利用者が増えている。初心者向けのレッスンには、連日様々な年代の人が参加する。

「自然のなかを走るのは気分がいい。どれだけ乗っても飽きることはない」。東京都多摩市在住の会社員、国領政義さん(49)の表情は満足げだ。長引くコロナ下での生活、ひとりで楽しめるアクティビティを模索するなか、目をつけたのがeマウンテンバイクだった。

ユーチューブで動画を見れば見るほど魅力に取りつかれたという。21年夏、米スペイン産のeマウンテンバイクを購入した。「初めて乗ったとき、これは面白いとすぐにわかった」(国領さん)。休日は自宅近くの多摩ニュータウンエリアを中心にバイクを楽しむ。

「インスタに載せると、そのかっこいい自転車がこの？と連絡がくるんです」。愛知県愛西市在住の橋本侑奈さん(24)は今年からクロスバイク型のeバイクを愛用する。ママチャリ(シティサイクル)型と比べても、スタイリッシュさは一目瞭然。愛用するeバイクを置いてみると、通りすがりの人が二度見すること

も多いという。「見せる楽しみもあるのがeバイクだと、使ってから気づきました」(橋本さん)。平日は営業職の会社員として働く。営業先への移動にママチャリを使っていたものの、長距離移動では体力の消耗が大きい。休日に自転車で遠出しようにも体力に自信が

なくあきらめていた。調べるうちにたどり着いたのがeバイクだった。仕事だけでなく、休日はサイクリングをしながらか写真撮影を楽しむ。使い始めて4カ月、eバイクは生活に欠かせない相棒だ。

eバイクは用途に応じてデザインや性能が分かれる。クロスバイクやロードバイク、マウンテンバイク、タイヤが小さいミニベロタイプと大きく分けて4種類。価格は20万円から100万円台と幅広い。決して安くはないが、短時間の試乗だけでは購入をためらう人もいるだろう。そこで活躍するのがeバイクのシェアリングサービスだ。スポーツバイク専門レンタルショップ「Cycle Trip B.A.S.E」(東京・千代田)では18年からeバイクのレンタルサービスを手がけている。当初、利用者の多くは外国人観光客だった。20年以降は失ったインバウンド需要を埋めるかのようになり、国内の利用者が増えた。レンタル期間も1日から1カ月単位と用途に応じて設定できる。長距離を走って試したい購入希望者や修理に出している自転車の代用品など、利用動機は幅広い。フードデリバリーの配達員が配達用にeバイクを借りるケースもあった。

電池内蔵、ママチャリ感なし



電動アシストがついた「eマウンテンバイク」で山道も難なく駆け上がる(東京都稲城市のスマイルバイクパーク)



eバイクならばSNS映えもバッテリー



ロス・カーティさん(左)はニセコで街おこしを目指す

仕事でも相棒/観光の目玉に



バッテリーを内蔵した「eマウンテンバイク」は見た目もスマート(東京都稲城市のスマイルバイクパーク)

「eバイクは用途に応じてデザインや性能が分かれる。クロスバイクやロードバイク、マウンテンバイク、タイヤが小さいミニベロタイプと大きく分けて4種類。価格は20万円から100万円台と幅広い。決して安くはないが、短時間の試乗だけでは購入をためらう人もいるだろう。そこで活躍するのがeバイクのシェアリングサービスだ。スポーツバイク専門レンタルショップ「Cycle Trip B.A.S.E」(東京・千代田)では18年からeバイクのレンタルサービスを手がけている。当初、利用者の多くは外国人観光客だった。20年以降は失ったインバウンド需要を埋めるかのようになり、国内の利用者が増えた。レンタル期間も1日から1カ月単位と用途に応じて設定できる。長距離を走って試したい購入希望者や修理に出している自転車の代用品など、利用動機は幅広い。フードデリバリーの配達員が配達用にeバイクを借りるケースもあった。

「eバイクは体力に自信がない人でも楽しめ裾野が広いとみる。関連施設を整備すれば街おこしの効果は大きそうだ。」「ニセコをオールシーズン世界中からたくさんの方が集まる町にしたい」と意気込む。米調査会社KBVリサーチは、世界のeバイクの市場規模は年々成長し26年には年間732億米ドル(約9兆3551億円)に達すると予測する。仕事から観光まで使い道は幅広く、国内市場の伸びしろも大きそうだ。(鍛冶美佑)